

# 人材への投資と 社会貢献

アシックスは、寄付やチャリティー、ボランティア活動を通して、私たちが生活し、働く場所であるコミュニティーをより良くしたいと努力しています。また、人材が企業の最も重要な資産であるという考えに基づき、才能を育み、多様性を重んずる働きがいのある労働環境の創出にも力を注いでいます。

## 明るい未来に向けたランニング

英国のザ・ランニング・チャリティ (The Running Charity) と新たに提携しました。ホームレスや弱い立場にある若者を支援する組織で、ランニングを通して健康の増進と目標設定意欲の向上を図り、より安定した持続可能な将来の構築を支援しています。このほか国際慈善団体ライト・トゥ・プレー (Right to Play) との長期の提携も継続しており、世界の貧困地域の子どもを支援しています。



“ランニングは、私の世界観を変えてくれました。今ではどんなこともやり遂げられると感じます。”

スティーブ・オルティ  
「ザ・ランニング・チャリティ」に3年間参加し、2016年にロンドンマラソンを完走

## 1マイル遠くへ

2016年、米国で「アシックス・エクストラ・マイル (ASICS Extra Mile)」キャンペーンを実施しました。このキャンペーンでアシックスは、いつもより「1マイル長く」走ることをウェブサイトやソーシャルメディア等でランニング愛好者に呼びかけ当社ランニングアプリ「ランキーパー (Runkeeper)※1」を通し、参加者が1マイル長く走るごとに、NPOのガールズ・オン・ザ・ラン (Girls on the Run) にランニングシューズを1足寄付しました。ガールズ・オン・ザ・ランは、ランニングを通じて少女たちがより幸福な生活を送るための知恵や自信の増進に貢献しています。

**50,000**足の  
ランニングシューズを寄付  
ASICS EXTRA MILEキャンペーンを通して  
GIRLS ON THE RUNへ

## 社員へのエンゲージメント・サーベイ

社員の共感を得、動機付けを図ることで、イノベーションが促され、生産性が向上し、お客様により良い製品やサービスを提供できるとアシックスは考えています。2016年は、2回目となる「エンゲージメント・サーベイ」を欧州、中東、アフリカ、北米、南米で実施し、社員が日々の仕事をどう捉えているかをコミュニケーション、企業風土、リーダーシップ等の観点で調査しました。この結果を基に、優秀な社員の確保や、事業の成長に向けた取り組みを進めていきます。定期的に調査を実施することで、社員一人ひとりが生き生きと働いているか、その職場改善の進捗を確認できます。2017年は日本でも同サーベイを実施する予定です。



このダイジェスト版は、2016年度の当社CSR・サステナビリティ活動の一部を紹介したものです。詳細については、ホームページをご覧ください。  
[corp.asics.com/jp/csr](http://corp.asics.com/jp/csr)

asics



2016年度サステナビリティ  
活動のダイジェスト



# NEVER STAND STILL

## 立ち止まることなく進み続ける

真のアスリートは自己ベストで満足することはありません。常に次の目標やゴールがあり、それに向かって挑みます。アシックスも、社会の持続的発展のため、常に改善を続けます。

“

2020年の目標を達成するためには、社会の変化と期待に応える必要があります。会社も私たち一人ひとりも変わっていかねばなりません。2016年はその準備を進めました。2017年は成長に向けて前に進む年です。

”



株式会社アシックス 代表取締役会長兼社長CEO 尾山 基

## 製品とサービスの創造

アシックスは、人々や社会、環境にとってより良い製品・サービスを作りたいと考えています。そのためには、素材の選択から製品の廃棄・リサイクルに至るライフ・サイクルの各段階での社会と環境への影響を把握し、管理することが必要です。

### 新しい目標に向けて

2016年は、2020年目標の達成に向けた最初の年でした。2020年目標には、「科学的根拠に基づいた目標設定計画 (Science-Based Targets Initiative) \*1」に沿ったCO<sub>2</sub>排出量の削減目標が含まれています。気候変動による悪影響を軽減するためにCO<sub>2</sub>排出量の削減がどの程度必要かという科学的根拠に基づき、CO<sub>2</sub>排出量の削減目標を設定しています。

### 製品のイノベーション

製品の環境配慮の追求は、イノベーションや製品機能の改善にもつながります。

一つ目の例は、ランニングシューズ「DynaFlyte (ダイナフライト)」です。当社従来のミッドソール (甲被と靴底の間) の中間クッション材 素材「E.V.A.」に比べて約55%の軽量化を実現した「FlyteFoam (フライトフォーム)」を全面に採用しており、耐久性の約8%向上\*2と同時に、材料の使用量が減少したことで、従来のミッドソール素材と比較して10%以上のCO<sub>2</sub>排出量の削減が見込まれます。

もう一つの製品イノベーションの事例は、植物由来成分の素材です。2016年、リオデジャネイロオリンピックの日本代表選手団に、植物由来成分100%のポリエステル素材を全面的に使用したポロシャツを提供しました。ジャケット等のその他ウェアにも植物由来成分30%の同素材を使用しています。

\*アシックスはオリンピック・パラリンピック日本代表選手団のゴールドパートナー(スポーツ用品)です。

### 事業所でのCO<sub>2</sub>削減

科学的根拠に基づくCO<sub>2</sub>排出量の削減目標の達成に向けて、オフィスや配送センター等の様々な形態の事業所で省エネルギー化を進めています。2016年は、日本国内のシューズ生産拠点である山陰アシックス工業株式会社の新工場建設に着手。太陽光発電やLED照明等を採用し、従来型設備と比較してCO<sub>2</sub>排出量を約12%削減できる省エネルギー型の施設にしました。また、電力使用量等をリアルタイムで監視するシステムも導入しており、運用面の省力化も目指しています。同工場は、グループ全体の生産工程改善のテストの場としても活用されます。

**-10%** ミッドソール素材のCO<sub>2</sub>排出量を削減

**100%** 植物由来成分の素材をシャツに採用



\*1: CDP、国連グローバル・コンパクト、世界資源研究所(WRI)、及び世界自然保護基金(WWF)による国際行動計画。世界の気温上昇を産業革命以前の気温から2℃未満に抑制する必要があるという科学的根拠に基づき、企業によるCO<sub>2</sub>排出削減目標の設定をサポートする。詳細はこちら [sciencebasedtargets.org](http://sciencebasedtargets.org) \*2: 当社ランニングシューズ「GEL-KAYANO 21」比

## サプライチェーンでの協働

サプライチェーンで起こり得る社会課題を管理するためには、工場や材料サプライヤー、そこで働く人々、労働組合、NGOなど、関係する全てのステークホルダーと密接に協働することが大切です。

アシックスは、生産現場の人々が公正な条件で働けるように、そして環境負荷が低減できるように、その理念を共有できるパートナーと連携していきます。

### 監査範囲の拡大

アシックスは、サプライチェーン上で発生する人々や環境への影響の把握に努めています。2016年は、グローバル商品を生産する主要1次委託先工場のうち110工場を監査しました。また、2015年に開始した2次委託先工場の監査については、対象を拡大しました。2次委託先工場では、化学物質を使用する工程などで人々や環境に大きな影響が発生する可能性があります。

今後も、1次委託先工場だけではなく2次委託先工場も監査することで、サプライチェーンのより広い範囲で人権が尊重され、法令が守られているかを確認していきます。

### 透明性の向上

アシックスとステークホルダーにとって、サプライチェーンで発生する社会や環境への影響を把握するためには、透明性の向上が必要です。

アシックスは、データベースシステムを用いて、グループ全体のエネルギーや水の使用量、廃棄物量を測定しており、2016年末からは、そのシステムをサプライチェーンでの環境面と社会面のデータ管理にも利用しています。

またいくつかの地域では、サステナブル・アパレル連合(SAC)やILOベター・ワーク・プログラムなどの組織の支援を受けてサプライチェーンの情報を収集しています。

### サプライチェーン上のステークホルダー

